

日本語学習者の日本語の IT 用語の習得状況

— 中国の大学生を対象とした調査 —

濱田美和・深澤のぞみ・翁麗霞

The State of Japanese Language Learner's Acquisition of Japanese IT Terminology:
A Survey of College Students in China

HAMADA Miwa, FUKASAWA Nozomi, WENG Lixia

要 旨

IT の普及に伴い、日常生活の様々な場面で IT 用語が使われるようになった。日本語教育においても、外国人の IT 用語の習得を支援するための方策を検討する必要がある。このための基礎研究として、中国の大学で学ぶ中国人日本語学習者 120 人を対象に、日本語の IT 用語の理解度を把握するための質問紙調査を行った。分析の結果、(1) 「インターネット」、「メール」等の重要語については外来語を含めて習得が進んでいること、(2) 文書作成やセキュリティにかかわる語で理解度の低い語があること、(3) 漢語の中にも中国語や漢字からの意味の類推が困難な語があること、(4) 「デジカメ」のような略語の理解度はその元の語と比べて低いが、中には略語のみを理解している学習者もいること、(5) 学習者が意味を取り違える恐れのある語があることがわかった。

【キーワード】 IT 用語、日本語学習者、中国の大学生、理解度、質問紙調査

1 はじめに

IT は日常のあらゆる面に使用されるようになり、IT 用語や IT 機器の操作にかかわる知識は、この時代を生きていくために、必須のものとなったと言っても過言ではない。日本で生活する外国人にとっては、IT そのものの知識はすでに有していたとしても、日本語での IT 用語や操作指示が理解できないと、IT を使いこなすことができない。そのため、学術場面や職業場面ではもちろん、ごく日常的な生活場面でも、日本語の IT 用語の理解が不可欠なものとなりつつある。

日本語教育の観点からは、外国人にとって日本語の IT 用語の理解にはどのような困難があるのか、そして、どのようなことを行えば効果的な支援に結びつくのかを、探る必要がある。そこで、筆者らは一定の日本語能力を有する日本語学習者を対象に、日本語の IT 用語の習得状況に関する調査を行うことにした。本稿では、日本に居住する外国人として、また、日本の大学に在籍する外国人留学生として、もっともその数の多い中国人を対象に行った調査結果を報告する。中国人日本語学習者が日本語の IT 用語をどの程度理解しているのか、また、どのような語の習得が困難であるのかを明らかにし、日本語教育における IT 用語の支援方策について提案したい。

2 調査の概要

2011 年 10 月に、中国浙江省にある国立大学の日本語科に在籍する中国人学生 120 人に対して、質問紙調査を行った。調査者が調査協力に応じた学生に調査票を配布して、調査内容の説明を行った後、学生はその場で調査票に記入して、調査者に提出するという手順で行った。

2.1 調査対象者の属性

調査対象者 120 人の性別は、男性が 39 人、女性が 81 人で、女性の占める割合が高いが、これは調査対象校の日本語科で女子学生が占める割合が高いことを反映したものとなっている。学年別では、学部 4 年生が 59 人、3 年生が 32 人、2 年生が 29 人で、4 年生の占める割合が高いが、これは中級以上の日本語能力を有するクラスを中心に本調査を実施したことによる。

表 1 性別

性別	人数	%
男 性	39	32.5
女 性	81	67.5
計	120	100.0

表 2 学年

学年	人数	%
学部 2 年生	29	24.2
学部 3 年生	32	26.7
学部 4 年生	59	49.2
計	120	100.0

日本語学習歴は、3 年以上の学習歴を有する学生が 58 人 (48.3%) で全体の約 2 分の 1、学習歴が 2 年以上 3 年未満と 1 年以上 2 年未満の学生がそれぞれ約 4 分の 1 となっている。これは学部別の内訳とほぼ一致する。日本語学習歴が 3 年以上の 58 人のうち 57 人は 4 年生 (あと 1 人は 3 年生)、学習歴が 2 年以上 3 年未満の 33 人のうち 31 人は 3 年生 (あと 2 人は 4 年生)、学習歴が 1 年以上 2 年未満の 29 人については全員が 2 年生だった。なお、120 人全員が日本での滞在歴はなかった。

IT 用語は英語由来の語が多く含まれるため、英語学習歴についても問うたところ、2 年 9 か月と答えた 1 人 (4 年生) を除いて、あとの 119 人は 6 年以上の学習歴を有しており、日本語学習歴よりも英語学習歴のほうが長い学生が大半を占めた。

表 3 日本語学習歴

学習期間	人数	%
1 年以上 2 年未満	29	24.2
2 年以上 3 年未満	33	27.5
3 年以上 4 年未満	53	44.2
4 年以上 5 年未満	3	2.5
8 年以上 9 年未満	2	1.7
計	120	100.0

表 4 英語学習歴

学習期間	人数	%
2 年以上 3 年未満	1	0.8
6 年以上 7 年未満	6	5.0
7 年以上 8 年未満	25	20.8
8 年以上 9 年未満	29	24.2
9 年以上 10 年未満	27	22.5
10 年以上	32	26.7
計	120	100.0

PC 使用歴は、2 年以上の使用歴を有する学生が 111 人 (92.5%) で 9 割を占めた。PC 使用歴がもっとも短い学生が 10 か月で 2 人 (2 年生)、1 年 1 か月～1 年 4 か月が 4 人 (2 年生、3 年生各 2 人) だった。なお、無回答の 3 人も、自身の PC 操作能力は「よくできる」、「まあまあできる」と回答していることから、一定の使用歴を有するものと推測される。

PC 操作能力 (学生自身による自己評価) についても、「よくできる」、「まあまあできる」という学生が 109 人 (90.8%) で、全体の 9 割を占めた。「ほとんどできない」と答えた学生は 1 人だけだったが、この学生は 8 年 1 か月の PC 使用歴がある。「あまりできない」と答えた学生 6 人のうち 1 人は PC 使用歴が 1 年 1 か月と短かったが、ほかの 5 人は 4 年以上の PC 使用歴がある。PC 操作に対して苦手意識を持っている学生も、PC 使用歴については一定年数を有していた。

表5 PC使用歴

使用期間	人数	%
1年未満	2	1.7
1年以上2年未満	4	3.3
2年以上3年未満	6	5.0
3年以上4年未満	7	5.8
4年以上5年未満	14	11.7
5年以上6年未満	9	7.5
6年以上7年未満	9	7.5
7年以上8年未満	7	5.8
8年以上9年未満	22	18.3
9年以上10年未満	6	5.0
10年以上	31	25.8
無回答	3	2.5
計	120	100.0

表6 PC操作能力

PC操作能力	人数	%
よくできる	36	30.0
まあまあできる	73	60.8
あまりできない	6	5.0
ほとんどできない	1	0.8
無回答	4	3.3
計	120	100.0

2.2 調査対象の語と判定方法

表7に示した日本語のIT用語66語を対象に調査を行った。66語は、濱田・深澤(2011)の調査結果をもとに、日常生活に浸透しているIT用語を中心に、同義語および複合語も含めて選定した。

表7 本調査で取り上げたIT用語66語

漢語(12語)	印刷, 画像, 画面, 感染, 掲示板, 携帯, ケータイ, 更新, 再起動, 端末, 動画, 配信
外来語(45語)	アクセス, アップデート, アプリ, アプリケーション, インストール, インターネット, ウイルス, ウェブメール, オンライン, キーボード, クリック, コンテンツ, コンピューター, サーバー, サイト, シャットダウン, スキャナー, スマートフォン, スマホ, セキュリティソフト, ソフトウェア, データ, デジカメ, デジタルカメラ, ダウンロード, チェック, チャット, ツイッター, ネット, ネットカフェ, ハードディスク, パスワード, パソコン, フェイスブック, フォント, プリントアウト, ブログ, ホームページ, メール, メールアドレス, メアド, ログアウト, ログイン, URL, USBメモリ
和語(4語)	書き込み, 取り込む, 読み込み, やりとり
混種語(5語)	キーワード検索, ゴシック体, デジタル化, ユーザー名, ワープロ文書

調査票では、表7の66語を「インターネットでキーワード検索をして情報を集める」(下線部がIT用語)のように文で提示し、その語の意味がわかる場合は「中国語または英語でその語に対応する語」をそれぞれ下線の語の下に書くように指示した(詳細は「資料」参照)。

調査実施後にデータを整理するに当たって、中国語で書かれた回答については、日本の大学で学ぶ中国人留学生5人に協力を依頼して、日本語のIT用語と回答者の書いた中国語が対応しているかどうかの判定を行った。5人に依頼したのは、中国語のIT用語についても、日本語と同様に、同一の指示対象に対して複数の語が対応する場合があります。学生の専門分野、出身地などによって、中国語でどの語が対応するかの判定に差が見られたためである。そこで、出身地の異なる人文系の学生3人と工学系の学生2人(うち1人は情報工学が専門)、計5人の判定結果を総合して、正誤の判定を行った。また、中国語で書かれた回答の中には、漢字の書き間違いもいくつか見られた。これらについては、日本語のIT用語の意味は理解していると考え、正答とした。

英語で書かれた回答については、日本語との意味的な対応関係で判定に迷うものはなかったが、スペルミスの可能性があるものがいくつか見られた。その中には、スペルミスなのか、ほかの語を書いたのか迷うものもあったが、これらは誤答として扱い、明らかにスペルミスと見なされるもののみを正答とした。

そして、日本語の IT 用語に対して、中国語か英語で対応する訳語、すなわち、正答を書いている場合を「理解している」と捉えて、分析を行った。

3 分析結果と考察

3.1 学生の理解語数

学生が 66 語中何語程度理解しているのか、学生 1 人 1 人の理解語数を求めた。

120 人の平均理解語数は 36.6 語だった。学年別では 2 年生が 24.9 語、3 年生が 35.0 語、4 年生が 43.4 語となっており、学年が高いほうが IT 用語の理解語数が多かった。

理解語数をもっとも多かった学生で 55 語、もっとも少なかった学生で 5 語という結果だった。学年別の理解語数をまとめたのが表 8 である。理解語数が 50 語以上 60 語未満の学生は 26 人 (21.7%) で全体の約 2 割を占めたが、その全員が 4 年生だった。一方、理解語数が 30 語未満の学生は 31 人 (25.8%) で全体の 4 分の 1 を占めたが、学年別に見ると、2 年生が 21 人、3 年生が 6 人、4 年生が 4 人となっており、2 年生の占める割合が高かった。

表 8 学生の理解語数

各学生の理解語数	全体		学部 2 年生		学部 3 年生		学部 4 年生	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
10 語未満	2	1.7	0	0.0	1	3.1	1	1.7
10 語以上 20 語未満	11	9.2	8	27.6	2	6.3	1	1.7
20 語以上 30 語未満	18	15.0	13	44.8	3	9.4	2	3.4
30 語以上 40 語未満	38	31.7	8	27.6	13	40.6	17	28.8
40 語以上 50 語未満	25	20.8	0	0.0	13	40.6	12	20.3
50 語以上 60 語未満	26	21.7	0	0.0	0	0.0	26	44.1
計	120	100.0	29	100.0	32	100.0	59	100.0

学年が上がって日本語の学習が進むにつれて、日本語の IT 用語への理解も深まることがわかる。

3.2 各語の理解率

調査対象の 66 語について、それに対応する訳語 (正答) を書いた学生数の比率を「理解率」として、理解率の高い順に表 9 にまとめた。

まず、理解率の非常に高かった語、理解率 80% 以上の語に目を向けると、「インターネット」、「コンピューター」、「メール」、「ホームページ」、「オンライン」、「データ」等の IT 用語の基本語彙の中でも特に重要な語と、「印刷」、「動画」、「画面」、「再起動」、「画像」、「感染」等の漢語が多く含まれていることがわかる。

次に、理解率が非常に低かった語、理解率 20% 未満の語を見てみると、「ゴシック体」、「ワープロ文書」、「フォント」といった文書作成にかかわる語と、「アプリ」、「ツイッター」、「スマホ」といった最近になって使われるようになった新しい語が中心となっている。理解率 40% 未満の語には、「端末」、「ログイン」、「ログアウト」といった共有の PC やネットワークを使う場合に欠かせない語や、「セキュリティソフト」や「インストール」のように PC 整備に必要な語も含まれているが、これらはセキュリティ対策にかかわる重要語でもある。

表9 各語の理解率 (%)

IT用語	理解率	IT用語	理解率	IT用語	理解率
1位 インターネット	99.2	パスワード	75.0	45位 アプリケーション	37.5
2位 印刷	98.3	24位 キーボード	70.8	スマートフォン	37.5
3位 動画	95.8	25位 ブログ	70.0	URL	37.5
4位 画面	94.2	26位 デジタル化	66.7	48位 ネットカフェ	35.8
5位 再起動	93.3	27位 アクセス	64.2	USBメモリ	35.8
6位 更新	92.5	28位 フェイスブック	63.3	50位 ハードディスク	34.2
コンピューター	92.5	メールアドレス	63.3	51位 やりとり	33.3
メール	92.5	30位 ダウンロード	62.5	ログイン	33.3
9位 ホームページ	91.7	31位 デジカメ	60.8	53位 メアド	32.5
10位 ネット	90.8	32位 ウェブメール	58.3	ログアウト	32.5
11位 キーワード検索	90.0	33位 サイト	50.8	55位 取り込む	31.7
12位 チェック	89.2	34位 携帯	49.2	56位 配信	26.7
13位 オンライン	85.8	35位 プリントアウト	48.3	57位 インストール	25.0
画像	85.8	ユーザー名	48.3	58位 スキャナー	24.2
データ	85.8	37位 シャットダウン	46.7	59位 ゴシック体	18.3
16位 感染	85.0	38位 書き込み	44.2	サーバー	18.3
17位 デジタルカメラ	84.2	コンテンツ	44.2	ワープロ文書	18.3
18位 ソフトウェア	79.2	40位 チャット	41.7	62位 アプリ	12.5
19位 パソコン	77.5	読み込む	41.7	63位 フォント	6.7
20位 アップデート	75.8	42位 ケータイ	40.0	64位 ツイッター	5.0
ウイルス	75.8	43位 端末	39.2	65位 掲示板	4.2
22位 クリック	75.0	44位 セキュリティソフト	38.3	66位 スマホ	0.8

3.3 外来語と漢語と和語

表7に示したように、今回調査対象としたIT用語66語のうち45語が外来語で、外来語が全体の7割近くを占める。これは、もともと日本語のIT用語に外来語が多いためである¹⁾。表9を見ると、外来語の中にも「インターネット」、「メール」、「オンライン」、「デジタルカメラ」のように、理解率80%以上と非常に高い値を示した語が複数ある。一般に、外来語を苦手とする日本語学習者は多く、元の英語がわかっているにもかかわらず、カタカナ表記の外来語と結びつけられないということがしばしばある。海外で日本語を学んでいる場合は、日本語環境のIT機器を使う機会は少なくなり、日本語のIT用語の習得があまり進んでいないことも予想されたが、この結果を見ると、一般の日本語学習者としてすでに定着しているIT用語もあることがうかがわれる。

漢語は12語取り上げたが、そのうち「印刷」、「動画」、「画面」、「再起動」、「更新」の5語は理解率が90%以上、「画像」、「感染」の2語も理解率85%以上と、非常に理解度が高かった。このうち、中国語においても日本語と同様の語が用いられるのは、「印刷」、「動画」、「画面」、「更新」、「感染」である。「再起動」という中国語はなく、中国語では「重新启动」という語を用いるが、「重」はもう一度、再びという意味で、「启」は「起」と同じ「qi」という読みであることなど、「再起動」と「重新启动」は結びつけやすい。また、中国語で「画像」は肖像画(を描く)という意味で、日本語の「画像」に対応する中国語は「图像」であるが、これも中国語あるいは漢字の意味から、日本語の意味を比較的類推しやすいと考えられる。一方で、「携帯」、「ケータイ」、「端末」、「配信」、「掲示板」については理解率が50%を下回っている。中国語の「携帯」は携帯するという意味であるが、「携帯(電話)」に対応する中国語は「手机」である。「端末」、「配信」は中国語では用いない語で、これらに対応する中国語は「终端(装置)」、「传送」である。「掲示板」については、中国語で「揭示」は揭示するという意味で用いるが、「掲示板」という語はなく、「(電子)掲示板」に対応する中国語は「电子传告栏」、「贴吧」²⁾である。一般に漢字圏の学習者にとって理解しやすい漢語であっても、中国語ではほかの語が用いられ、中国語での意味や

漢字からの類推が難しい語については、理解しにくいことがわかる。

和語は「書き込み」、「読み込む」、「やりとり」、「取り込む」の4語のみであるが、理解率がもっとも高かった「書き込み」が44.2%、もっとも低かった「取り込む」が31.7%で、理解率が極めて低い語はなかったが、いずれも理解率が50%を下回っていた。

3.4 同義語

今回の調査では、「インターネット」と「ネット」、「印刷」と「プリントアウト」のような同義語について、理解度に差があるかどうかの確認も行った。

まず、「インターネット」と「ネット」のように、元の語とその略語の関係にある同義語の理解率を見ると、「インターネット」が99.2%で「ネット」が90.8%、「デジタルカメラ」が84.2%で「デジカメ」が60.8%、「メールアドレス」が63.3%で「メアド」が32.5%、「アプリケーション」が37.5%で「アプリ」が12.5%、「スマートフォン」が37.5%で「スマホ」が0.8%となっており、いずれも略語のほうが元の語よりも理解度が低いことがわかる。元の語との理解率の差を求めると、「ネット」が8.4ポイント、「デジカメ」が23.4ポイント、「メアド」が30.8ポイント、「アプリ」が25.0ポイント、「スマホ」が36.7ポイントとなる。「ネット」以外は元の語との差が20ポイント以上あり、外来語の略語は日本語学習者にとって理解が困難なことが確かめられる。

さらに、元の語とその略語、それぞれどちらか一方のみを理解していた学生数と割合（120人中）を求めたところ、表10のようになった。いずれの同義語についても、元の語のみを理解している学生数のほうが圧倒的に多い。ただ、「スマホ」以外の語では略語のみを理解という学生もわずかながら見られた。

表10 略語とその元の語の比較

	元の語のみ理解		略語のみ理解	
	人数	%	人数	%
インターネット, ネット	11	9.2	1	0.8
デジタルカメラ, デジカメ	34	28.3	6	5.0
メールアドレス, メアド	40	33.3	3	2.5
アプリケーション, アプリ	35	29.2	5	4.2
スマートフォン, スマホ	44	36.7	0	0.0

次に、「印刷」と「プリントアウト」のように、漢語と外来語の関係にある同義語の理解率を見ると、「印刷」が98.3%で「プリントアウト」が48.3%、「更新」が92.5%で「アップデート」が75.8%となっており、いずれも外来語のほうが理解度が低いことがわかる。漢語との理解率の差は、「プリントアウト」が50.0ポイント、「アップデート」が16.7ポイントで、特に「プリントアウト」については開きが非常に大きい。また「携帯」と「ケータイ」は漢字表記かカタカナ表記という表記上の違いのみで、いずれも漢語であるが、理解率を見ると、「携帯」が49.2%で「ケータイ」が40.0%、その差は9.2ポイントとあまり大きくないが、カタカナ表記のほうが理解度が低くなっている。

略語の場合と同様に、漢語と外来語、それぞれどちらか一方のみを理解していた学生数と割合（120人中）を求めたところ、表11のようになった。「印刷」を理解しておらず「プリントアウト」のみを理解していた学生はいなかったが、「更新」を理解しておらず「アップデート」のみを理解していた学生はわずかながらいた。そして、「携帯」を理解しておらず「ケータイ」のみを理解していた学生については全体の1割いた。この理由として、中国語の「印刷」と「更新」は、日本語の「印刷」と「更新」と同じような意味で用いられる³⁾のに対して、中国語の「携帯」は「携帯電話」の意味では使えないことが関係しているものと思われる。漢字圏である中国の学生にとっては、漢語あるいは漢字表記の語

のほうが理解しやすいように考える傾向があるが、語によってはこれが当てはまらない場合があることに注意しておかなければならない。

表 11 漢語（漢字表記の語）と外来語（カナ表記の語）の比較

	漢語（漢字表記の語）のみ理解		外来語（カナ表記の語）のみ理解	
	人数	%	人数	%
印刷, プリントアウト	60	50.0	0	0.0
更新, アップデート	24	20.0	4	3.3
携帯, ケータイ	25	20.8	14	11.7

3.5 意味の誤解

最後に、意味の誤解に注意を要する語を見ておく。表 12 に誤答率 10%以上の語について、誤答率の高い順に示した。

表 12 各語の誤答率 (%)

IT 用語	誤答率	IT 用語	誤答率	IT 用語	誤答率
1 位 掲示板	67.5	フォント	24.2	書き込み	17.5
2 位 携帯	41.7	10 位 プリントアウト	22.5	18 位 パソコン	16.7
3 位 USB メモリ	39.2	11 位 端末	21.7	19 位 スマホ	12.5
4 位 配信	32.5	取り込む	21.7	20 位 コンテンツ	10.0
5 位 ワープロ文書	30.0	13 位 サーバー	20.8	デジカメ	10.0
6 位 やりとり	25.8	14 位 ツイッター	19.2	読み込む	10.0
7 位 サイト	25.0	15 位 アプリ	17.5		
8 位 ケータイ	24.2	アプリケーション	17.5		

誤答の要因には、当該語の意味の誤解以外に、文脈から、漢語の場合は中国語での意味や漢字から、外来語の場合は音や原語の英語から、意味を類推して答えた場合なども考えられる。たとえば、「スマホ」については、「座机」（固定電話）という誤答が多かったが、これは調査票に提示した「ケータイとスマホ、どちらが使いやすい？」という文を読んで、「ケータイ」の意味を理解している学生が、文脈から類推して「座机」と書いた可能性が高い。また「サイト」については、「side」、「旁边」（そば、傍ら）という誤答、「フォント」については、「photo」、「照片」（写真）という誤答がかなりの数見られたが、これは「サイト」や「フォント」という音から意味を類推して答えた可能性が高い。このように、「誤答＝意味の誤解」と捉えることはできないが、誤答の内容から、学生が意味を誤解している可能性があり、注意が必要だと思われる語を以下に 3 つ挙げる。

1 つ目は、「パソコン」である。10 人が「私人电脑」という中国語訳を書いていた⁴⁾が、この意味は、(会社や学校等の PC ではなく) 個人所有の PC という意味で、「personal computer」の「personal」の意味を強く意識したものと思われる。意味的に必ずしも間違いとは言えないかもしれないが、日本語の「パソコン」についてはこの語だけで個人所有の PC という意味は示さないため、使い方によっては誤解を招く恐れもある。

2 つ目は、「端末」である。17 人が「端口」（ポート）という中国語訳を書いていた。3.3 で「端末」は中国語では用いない語で、対応する中国語は「终端（装置）」であることを述べたが、「端末」という日本語から「终端（装置）」という中国語をイメージするのは難しいようである。今回の調査対象者とは別に、中国の大学および大学院で日本語を専攻し、日本語の習熟度が非常に高い留学生たちからも、日本に来たばかりの頃に「端末室」ということばを見て、何を意味するのかがまったくわからなかった

という話を聞いたことがある。「端末」は日常生活での使用頻度はさほど多くないが、大学生活ではよく目にしたり耳にしたりする語である。

3つ目は、PCなどのIT機器にデータをコピーするという意味の「取り込む」である。5人の学生が「騙取」(騙し取る)という中国語訳を書いていた。ほかに、「得到」(手に入れる)と書いた学生も多かったが、これも、自分の物にするという意味で理解しているのではないかと思われる。「取り込む」も、日常的に使用される場面は限られているが、意味を取り違えると、大きな失敗につながる恐れのある語と言える。

4 おわりに

今回の調査結果から、日本語のIT用語の中でも「インターネット」、「メール」、「コンピューター」等の重要語については、一般に日本語学習者が不得手とする外来語であっても、かなり習得がなされていることがわかった。一方で、漢字圏の学習者にとっては理解しやすいとされる漢語の中にも、中国語や漢字から意味を類推しにくい語や意味を誤解する可能性のある語が存在することや、外来語や和語の中にも、英語や日本語の知識をもとに類推して正確な意味を把握できていない語があることも確認された。これらは日本語教育の中でも意識的に導入していくべき語であると言える。そして、セキュリティ対策や文書作成にかかわる用語について、習得が十分になされていない語が目立った。特に留学生として来日する学習者に対しては、円滑に留学生活のスタートを切れるように、来日前あるいは来日後の比較的早い時期にこれらの指導を行う必要がある。

今後は、現在進めている韓国人学習者の習得状況についての調査結果をまとめた上で、学習者それぞれのニーズに応じた教材開発へとつなげていきたい。

注

- 1) 濱田・深澤(2011)で行った新聞や雑誌などで用いられるIT用語に関する調査では、外来語が63.1%、漢語が22.1%、混種語が10.0%、和語が4.3%だった。
- 2) 「贴吧」は特に若者間で用いられる、話ことば的な語である。
- 3) 「文書等をプリンタで印刷する」という意味では「打印」を用いたほうが適当である。中国語の「印刷」は、「出版物を印刷する」という意味合いが強い。
- 4) 「私人电脑」と意味的に似たことばとして「个人电脑」(個人電腦)がある。中国語母語話者によると、「私人电脑」は「私の…」という意味が強調されるが、「个人电脑」はそのようなニュアンスは感じられないそうである。「个人电脑」は『中国語インターネット用語集』にも「パソコン」の訳語として掲載されており、本稿での分析においても正答として扱った。

参考文献

- (1) 後藤寛樹・深澤のぞみ・濱田美和(2002)「コンピュータ用語のデータベース作成と特徴の分析—留学生の情報活用能力の養成を目指して—」『富山大学留学生センター紀要』創刊号, pp.3-14
- (2) 濱田美和・深澤のぞみ(2007)「IT用語の日常への浸透と習得」第4回日本語教育とコンピュータ(CASTEL-J)国際会議(於、米国・ハワイ大学カピオラニ校), 『CASTEL/J 2007 Proceedings』, pp.197-200
- (3) 濱田美和(2008)「情報セキュリティ・情報モラル教育に関わる日本語の用語の分析」『富山大学留学生センター紀要』第7号, pp.1-14
- (4) 濱田美和・深澤のぞみ(2011)「日本語教育の観点から見た日本語のIT用語の特徴」『富山大学留学生センター紀要』第10号, pp.1-9
- (5) 深澤のぞみ・濱田美和・後藤寛樹(2003)『「留学生のためのコンピュータ用語集」の開発』『専門日本語教育研究』第5号, pp.45-50
- (6) 莫邦富・戴嶸(1996)『中国語インターネット用語集』, ジャパンタイムズ

